

新聞の良さを生かし、自分の生活とかかわらせながら、学びあう子どもたちに

指定校1年次 栄村立栄小学校 真嶋 朋子

## 1 本校の新聞活用（NIE）の現状

本校は、統合4年目で児童数は64名である。統合を目前に控えた2011年3月12日に、県北部地震がおこり、栄村は大きな被害を受けた。また学校も避難所になり、トイレが使えず仮設トイレを使用したりプールの損壊があったりした。子どもたちも避難生活を体験したり不自由な思いをしたりしたが、いろいろな方からの支援をたくさん受けて、落ち着いた生活を送ってきている。

この地震により、新聞やテレビなどで地震に関する報道もたくさんされてきて、報道を身近に感じる環境だが、子どもたちにとってテレビのニュースなどに比べ新聞はまだまだ遠い存在のようである。新聞を購読していない家庭も多くある。試しに、新聞をいつでも見られるようにと、机の上に置いてみたが、手に取る児童はほんの数人程度だった。こうして新聞を読める環境を整えただけでは、新聞を読んだり活用したりする子どもたちにはならないなど実感した。そこで教師で気になる記事を紹介したり、新聞に付箋を貼って目立つようにしたり、戦争の記事をスクラップしてみようと実践したりして、少しずつ新聞のよさなどに目が向き始めてきた子どもたちである。やはり教師が何か手だてを講じる中で、新聞活用のできる子どもたちになるのだろうと思う。

## 2 実践のねらい（育てたい力）

本校の教育目標「ふるさとを愛し、心ゆたかに（徳）、かしこく（知）、たくましく（体）の調和のとれた子どもの育成」から、今年度の全校研究テーマを「栄村の子どもたちの学力向上」と据えた。

今年度、NIE研究（高学年）グループでは、ねらう姿を次の4点と考え、各学年児童の実態に合わせてできるところから始めようと考えた。

- ① 新聞に関心を持ち、毎日目を通し読む子どもたちに（社会を知り、読む力）
- ② 興味ある記事を詳しく読もうとする子どもたちに（関心を高め、読む力）
- ③ 気になる記事を伝えあう子どもたちに（表現力）
- ④ 新聞記事から、自分の生活をふりかえり考えていける子どもたちに（思考力、活用・応用力、発信力、）

## 3 研究実践内容

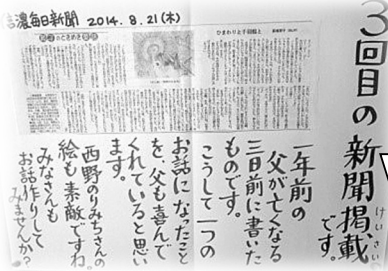
### （1）新聞を手に取りやすい環境づくり



高学年教室前に新聞を置き、いつでも読めるように配置した。

毎日届いた新聞4社の1面のみを並べて掲示し、読み比べられるようにした。

(2) 教師による新聞記事の紹介 (身近な話題から)



先生が書いたお話が掲載された。



支援に来てくださった方の記事を取り上げた。

(3) 新聞を使った学習

社会 「火事からくらしを守る」 4年

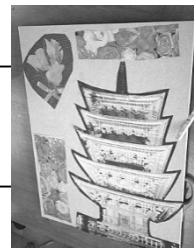
身近な火事の記事を読んでわかったことを話し合ったり、安全なこと、安全ではないことの記事をペアで新聞から探したりすることを通して、安全に暮らすために働いている人がいることを知る。



記事にはふりがなをふり、一部分を取り上げた。新聞の記事の書き方の工夫や良さにまで気づく子がいた。新聞には多彩な記事があり、生活経験だけでは気づきにくいウイルスや交通安全呼びかけまで、いろいろ取り上げて考えられた。一方で、「詳しく内容を確認したいのに、漢字が読めない。」と、つぶやく子どもがいた。知りたい気持ちと漢字表現レベルの壁がもどかしそうだった。

図工 「コリントゲームを作ろう」 4年

コリントゲームの絵のデザインを、新聞や雑誌から切り抜いて組み合わせてはることを通して、表し方を工夫することができる。



新聞の文字ではなく、写真から入ることで、抵抗なく触れることができた。友だちが見つかる写真に驚いたり、お互いに新聞を開いて見せ合ったりして、交流できた。大きな背景をさがしながら、「新聞にもこんなに大きなカラーの写真があるんだね。」と気づいた。

国語 「新聞記者になろう」

社会 「ゴミ処理場見学の記事のまとめ」 4年

新聞記者さんに教わりながら、ゴミ処理場見学の記事を書くことを通して、見学したことを読む人に伝わるように書くことができる。



自分の目で見たことをまとめるので、内容に困る様子にはなかった。見出し・わりつけ・5W1Hなど、新聞記事の書き方をよく理解できた。下書き用シートが有効だった。書く内容を整理しやすかった。

スクラップブックの活用 5年

毎週末の宿題として新聞をスクラップしてコメントを記入して提出している。反応は良く、様々な記事から新聞広告まで幅広く選んでコメントする姿が見られる。ただブック形式だとお互いの選んだ記事やコメントを交流することにやや難があるため、時には台の上に広げて見合えるようにしている。今後はカード化して掲示し、新聞記事の多様さや互いの気づきの良さを認め合えるような機会を設けていきたい。

## 8月の新聞から戦争の事実を知る 6年

8月の新聞を1人ずつ1日分の新聞を分担し、戦争に関わる記事を読み、大事なことを書き出して感想を書き、班ごとに発表した。全体発表の中では、戦争の様子や満蒙開拓団のこと、平和記念式典・全国戦没者追悼式、原子爆弾、B29、原爆症、人間魚雷などいろいろな記事が出された。その後、それらを廊下に掲示し、みんなで見られるようにした。

## ぎんれい（超小型人工衛星）見学会（6年）

信大の中島厚教授に栄小へお越しいただき、「ぎんれい」や星についての事前授業をされた。

打ち上げるときに「栄村の人のためにもがんばりたい」という思いがあったこと、また、4年生の時に「ぎんれい」の名前募集に参加した繋がりで、お誘いをくださったとのこと。ためておいた「ぎんれい」関連新聞切り抜きをもとに読み進め、たくさんを知り、多くの質問ができた。ぎんれいへの思いも深めることができた。



## (4) 公開授業・学習指導案

①題材名 「わたしたちの入学式」1-(2)自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる

②主題設定の理由

4学年は、指示されたことに素直に取り組んだり、与えられた課題に対して落ち着いて追究したりするなど前向きな姿勢で学習する。また、休み時間には学年全員で遊んだり、運動会の組体操に高学年全員で熱心に取り組んだり、友達と協力して活動することに喜びや満足感をもつ児童が多い。一方で、進んで活動する姿も多いが、その良さを自覚しきれず、自信が持ちきれていない。一人になると、難しそうな課題にはすぐに不安そうな顔をしたり、人任せにしたりと、失敗を極端に恐れる姿も見られる。

10才を迎える今年度、2分の1成人式で、今まで・今・これからを年表に表して発表する学習を行う。今までの人生で大きな出来事は、やはり地震であろう。北部地震のあった2011年3月12日は、栄小学校1期生として入学を楽しみに待つ年長児だった。地震から丸1ヶ月後の新聞記事には、入学式を緊張して迎えた様子が記載された。新聞発行当時は新聞をよんだとしても、現在は覚えていないであろう。

その記事をきっかけに、大地震の混乱の中で自分達の入学式をなるべく早く行おうとしてくださった様子をお聞きし、自分達が明るいニュースを村にもたらしたことを知ること、これからも自分の目標に向けてがんばっていく大切さを感じてほしい。

③本時案

ア 主眼

震災後の混乱の中での入学式にむけた周囲の思いに触れながら、自分の目標への取り組みを繰り返すことを通して、自分もやり通してきた良さを持っていることに気づき、今後も粘り強くやり遂げようとする気持ちをもつことができる。

イ 指導上の留意点

新聞記事は未習漢字が多いため、ふりがなをふったり見出しで内容を確認したりし、子ども達に必要な部分だけを扱うようにする



		*赤線を引きながら机間指導し、より詳しく書けるように支援する。	
終末	4 授業をふりかえり、感想を書く。 ○これからも、目標に向けて、ねばり強くがんばりたい。	自分もやり通してきた良さを持っていることに気づき、今後もやり遂げようとする気持ちをもつことができる	10

(5) 授業記録と考察

① 授業の概要

② 主題名「わたしたちの入学式」 (4年生 13名)

1 - (2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる

③ 授業を構想するにあたって考えたこと

④ 震災を扱うことについて

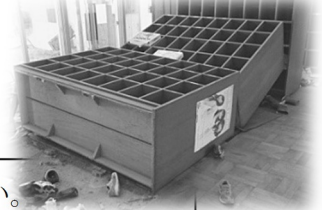
- ◎いつかは教材化したいと考えていた。
- ◎被災体験での子どもたちの心の傷も心配。(トラウマ)
- ◎大変さを強調した暗い授業にはしたくない。



様々な思いに支えられている今の自分の姿を、希望をもって考えさせたい。



栄小が開校  
長野県北部地震(3月12日)で家が壊れるなどした下木内郡栄村では、二つの小学校がいっしょになって「栄小学校」が12日に開校。余震が続く入学式で、みんなで新しい校歌を歌いました。



県北部地震から1ヵ月 余震の不安の中



1時間遅れで始まった入学式で、各校児童から拍手で送られる1年生。12日午前10時55分、復興小学校校庭

2011年4月12日付  
信濃毎日新聞 夕刊

### 栄小 笑顔で入学式

1会場変更「勉強頑張りしたい」

長野県北部地震で被災した下木内郡栄村で、12日に開校した栄小学校の入学式が、1時間遅れで始まった。各校児童から拍手で送られる1年生。12日午前10時55分、復興小学校校庭

栄小学校は、1年生から6年生まで、男女合わせて120名が入学した。校長の挨拶で、被災した子どもたちのために、みんなで力を合わせて頑張ろうと決意を述べた。

入学式は、1時間遅れで始まった。各校児童から拍手で送られる1年生。12日午前10時55分、復興小学校校庭

栄小学校は、1年生から6年生まで、男女合わせて120名が入学した。校長の挨拶で、被災した子どもたちのために、みんなで力を合わせて頑張ろうと決意を述べた。

栄小 笑顔で入学式

1会場変更「勉強頑張りしたい」

教室で担任から受け取った教科書を真新しいランドセルに詰め込んだ関谷君(6)は「家を出る時に大きな地震があつて怖かったけれど、学校には毎日来て勉強を頑張りたい」と笑顔を見せた。1年生

⑤新聞を教材として有効に活用するために

- ◎たくさんの震災関連記事の取捨選択。
- ◎着目させる視点を明確化して電子黒板で提示。(写真・見出し・本文の一部)



⑥その他の資料と授業後半の展開

◎VTR 資料 (入学時の教頭先生の話)

入学式をなるべく早くやろうとした思い



大変な状況だった。

3月12日の地震で入学式が延期になりましたか？

入学式は、12日に開校した栄小学校の入学式が、1時間遅れで始まった。各校児童から拍手で送られる1年生。12日午前10時55分、復興小学校校庭

4月12日に入学式が行われました。先生はどのくらい緊張していましたか？

入学式は、12日に開校した栄小学校の入学式が、1時間遅れで始まった。各校児童から拍手で送られる1年生。12日午前10時55分、復興小学校校庭

◎PTA 新聞 (新入生の決意)

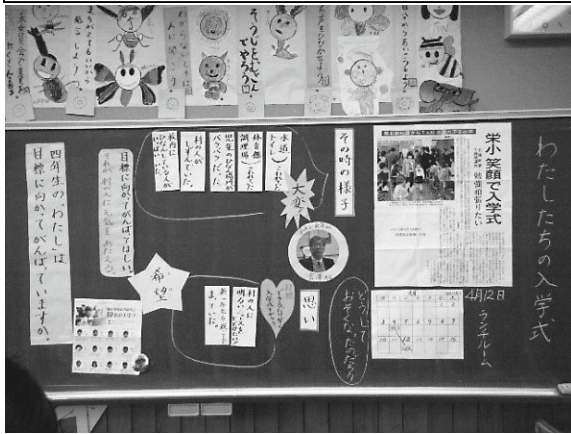


みんなのがんばる姿が、  
村の人の希望の星になる。

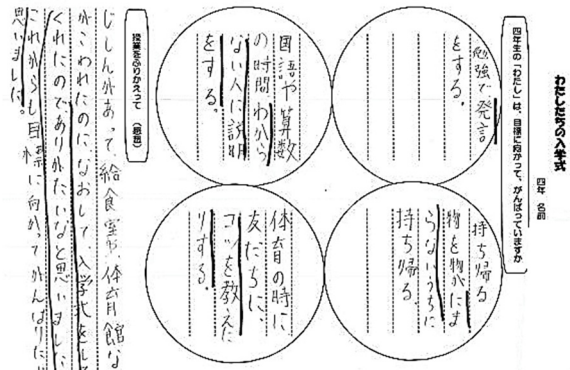
明るいニュースを届  
けたかった。

VTR内容を文章  
でも用意。

中心発問 「4年生の『わたし』は、目標に向けて、がんばっていますか。」



～板書より～



～児童の学習カードより～

⑦ 授業記録

T : 私たちの入学式を勉強します。入学式のこと覚えている人？ (挙手 3人)

S さん、どんな入学式でしたか。

S 子 : 地震があったから、ランチルームでやった。

T : いつもはどこでやるの？ (C : 体育館。) T : Rくんは？

R 男 : 体育館でやったけど、来賓の人がたくさんいた。

T : R君、覚えていたんだね。先生もみんなの入学式知らないんだ

よね。見つけちゃったんだよね。ジャン。(入学式の新聞提示) さて、誰だ。(画面を大きくして)

(C : きららさん)

みんなで読んでみましょう。(見出しを読むC : 「栄小、えがおで入学式」) 場所は？ (ランチルーム)

もう1つ。(4/16子ども新聞を提示) どなたがいらっしゃいましたか？写っている人？ (Cハーイ)

思い出しましたか？かわいいね。何を思い出しましたか？ (Cランチルーム、かわいかったこと)

K君は？ (K男 : いなかった) なぜ？ (インフルエンザ)

T : 地震がなかったら、いつやる予定だったか知っていますか？ (C : 4/3か4) 調べたら、4/4の予定でした。それがずれたんだって。8日間どうしたの？

R 男 : 復興していた。ランチルームとか。

K 子 : 地震で直していた。

M 子 : 余震が来るかもしれないから。

T : 先生知らないから・・・(この人) 知ってる？・・・前の教頭先生、宮澤先生にその時の様子を聞いてきました。(C : すご) インタビューで、3つ質問しています。①どんな様子でしたか？②入学式はどうやって決まって、どう行われたのですか。③どんな入学式でしたか？

(DVDをながす。子どもたち、真剣に見ている)

T : 3つ質問しましたが、どんな様子でしたか？

R 男 : 体育館、トイレ、調理場が使えなかった。

K 子 : 児童の避難場所がばらばらだった。(T : Mちゃんは、飯山。

Kくんは？ G君は？ )

○転校してきたR君にも、配慮し声がけをしたり、写真などを用意したり、R男も一緒に参加できていた。

○導入の新聞提示、4月のカレンダー、DVDなど、資料が有効的で、子どもたちを引きつけていた。

T：他に、どんなこと言ってた？

H子：村の人、沈んでた。

R男：学校内に人がいっぱいいた。

S子：2階オープンスペースや3階オープンスペースに分かれていた。

○インタビュー内容の把握が難しいかもと予想し、予め用意しておいた、プリントを児童の様子に合わせてサッと配ったことは、子どもたちにとってとても分かりやすくよかった。

T：どう？・・・反応よくなく（じゃあと言って、インタビュー内容を文字にしたプリントを配布）2つめの質問に何と聞いていますか？

K男：希望を持ってほしい。

M子：待ってた

T：だから、目標持ったんだね。できるだけ早く入学式をやろうって。

T：続きがあります。みなさんにメッセージがあるそうです。（メッセージDVD流す）何だった？

T男：不自由な中送ってた。

K子：元気に過ごしてほしい。

K美：目標に向かってがんばってほしい。

H子：それが、村の人に元気を与える。

T：1年生の時、目標を持っていましたか？（C：うーん）さっきの新聞に戻るんだけど、（拡大して）（勉強がんばりたいといていたR男の文に注目させる）他の人は覚えてる？（・・・）フッフ、あったの。（PTA新聞にのっている、写真とがんばりたいことに触れる）

T：この笑顔、配られましたよ。この笑顔を見て、村の人たちの希望の光になったんだね。

T：さて、4年生になりました。4年生の「わたし」は、目標に向かってがんばっていますか？  
どんな目標を持っていますか？

K男：忘れ物をしない。

R男：K君と同じ。

T：R男くん、鼓笛のがんばりはどうでしたか？

K子：音楽会で2部合唱をあきらめなつて言われて「やる」って言いました。

○目標を思い出しやすいするために、いくつか例示したので、子どもたちも困ることなく自分の目標について考えることができた。



T：そうやって、自分がやっているかなとふり返ってみましょう。（学習カード渡し、○の中に1つずつ書いてね。4分でいいですか？・・・友達の意見を聞きあいたいと思います。グループになって。

T：机をもどしましょう。時間が来てしまったので、グループ発表を。

T：ふりかえりを書きましょう。

T：聞いてみたいと思います。

R子：グループで話し合えてよかった。

○時間が押したために、グループ活動にしたことは友とのかかわる場となり良かった。

H子：入学式をしてもらって、ありがたい。これからもがんばりたい。

T男：入学式をふりかえり、知れて良かった。

## ⑧ 研究会で出された意見から

- ① この学校の、このクラスでしかできない身近な教材、すばらしい。
  - ② 新聞記事もDVDも材として効果的だった。機器の活用もよかった。  
(S子が書く活動ですらすら書いていた)
  - ③ グループでのシェアや授業の流れのテンポがよかった。
  - ④ 細かな配慮のある気持ちのこもった授業で、自分や仲間を認める土壌のある中で行われていた。
  - ⑤ 防災教育としてもすごく価値のある授業だった。
- ◆指導案作り、負担のないよう、できるだけ簡単に心をかけた。◆時間配分が気になった。

# 自分の入学当時記事で振り返る



信濃毎日新聞の記事やDVDで入学式を振り返った児童たち

## 栄小学校4年生

担任の松本先生が入学式の記憶を振り返る姿が、児童たちにも大きな影響を与えている。入学式は4月1日の朝、体育館で行われ、児童たちは緊張した表情で入学式に参加した。入学式当日の朝、児童たちは緊張した表情で入学式に参加した。入学式当日の朝、児童たちは緊張した表情で入学式に参加した。

### 学校生活 頑張る決意新たに

「入学式当日の朝、緊張した表情で入学式に参加した。入学式当日の朝、児童たちは緊張した表情で入学式に参加した。入学式当日の朝、児童たちは緊張した表情で入学式に参加した。」



### ここがポイント

**内容 丁寧に読み取らせる**  
 二つ目は、徳永教諭が児童に新聞の内容を丁寧に読み取らせること。入学式の記事を拡大して黒板に張り、電子黒板の記事を大映しにする。3本の発出しポイントとなる記事を見直し、内容を合わせて読み取らせる。児童は当時の様子を次期に思い出し、考えていました。三つ目は、学習を3段階に分け、

(2015年1月11日 信濃毎日新聞)

## ⑨ 江澤先生からのご指導から

### ア 材料(新聞)は目標達成のために用いる。

・Aグループでも出されていたが、「がんばることはいいことだ」という価値観から「がんばって来れた良さがわかり、できるようにがんばろうという思いに高めることが大事。目標達成の姿は、花さんに見られた。もし、この姿にたどり着けなかったとしたら、何がいけなかったのか。材料(新聞)は、目標達成のために用いる。

・今回のDVDもPTA新聞も全てが材。

### イ 新聞記事も適切だった。

・今回の主人公は、栄村の子どもたち。道徳敵実践力のある子どもたちを育てたいという願いから、自分を振り返るための新聞記事があった。入学時を、大人ほど覚えていないのか口を閉ざしているのか分からないが、DVDでも「震災を乗り越える」いいアドバイスをもらった。

### ウ 資料の使い方もよかった。

・展開場面で、新聞、DVD(引き込んで考える場面)、子ども新聞、PTA新聞の資料を使っている。

エ 研究にかかわって、NIEを学力向上に生かしたいという考えで行っている。どんな学力をつけたのか、言語能力をどう育てたいのか。新聞ありきではなく、使い分けに気をつけながら進めたい。新聞は材料。ただし、新聞そのものに「社会とつながる」という価値がある。だから、「新聞を使うんだ」。明確なねらいや考えを持って進める。

オ 実践を重ねていくすばらしさ。

新聞を使う、①なかよしになる。(新聞スクラップへ) ②読める子になる。(足りない所は補いながら、学年に応じて読ませている)

カ 道徳の授業作りで大事な事は、①ともに学び喜ぶ ②自己の成長に気づかせる③自己の生き方を実感できる。指導過程では、①心を揺さぶる(気づかせ、引き出す) ②価値観の交流(自分を見つける) ③心の問いかけ④価値の自覚(共感が大事)を意識して。

## 4 研究のまとめ

新聞の良さを感じる子どもたちになったが、生活とかかわるところまではできなかった。

## 5 成果と◆課題

○高学年で、気持ちを揃えて取り組めてよかったし、とった6つの新聞は良かった。特に子ども新聞が分かりやすく良かった。○授業では、栄村ならではの題材を中心に据え、身近な記事を使った事がよかった。○子どもの姿から、4月当初は、新聞に対して、「難しい」「読めない」と否定的であったが、「楽しい」「もっと読みたい」という感想が多くなった。

- ◆課題としては、具体的な成果が見えにくい。ねらいを焦点化して取り組みたい。
- ◆来年度、いろいろなやり方。いろいろな材がある中で、新聞を材料として何をどのようにやるか。
- ◆栄村ならではのことは、どうだろうか。(例：震災関連で。取材して、まとめて、発信できればいい。)

次年度も、楽しく取り組み継続していきたい。